

# 平成 28 年度 技術者研修会報告

## 「若き技術者のための岩盤の地質工学的評価と分類」について

一般社団法人 日本応用地質学会 北海道支部，北海道応用地質研究会，一般社団法人 北海道地質調査業協会の共催による，平成 28 年度技術者研修会が平成 29 年 1 月 23 日（月）に開催されました。式次第を以下に示します。

### ○ 開 会

北海道地質調査業協会 技術アドバイザー 横田 寛 氏

### 第 1 部：「若き技術者のための岩盤の地質工学的評価と分類」の解説

日本応用地質学会 岩盤分類再評価研究小委員会（第二期）編

#### 1. 岩盤分類と地質解釈など（第 1～5 章）

講師：国立研究開発法人 土木研究所 寒地土木研究所 伊東 佳彦 氏

#### 2. ダムにおける岩盤分類（第 6 章）

講師：独立行政法人 水資源機構 朝倉総合事業所 江口 貴弘 氏

—— 休憩 ——

#### 3. トンネルにおける岩盤分類（第 9 章）

講師：公益財団法人 鉄道総合技術研究所 小島 芳之 氏

#### 4. 岩盤分類の新たな展開（第 12～13 章）

講師：サンコーコンサルタント株式会社 堀川 滋雄 氏

### 第 2 部：UAV を利用した地質調査

#### 5. UAV を利用した地質調査について

講師：HRS 株式会社 大浦 宏照 氏

### ○ 閉 会

北海道応用地質研究会 会長 遠藤 祐司 氏

この技術者研修会は、(一社)日本応用地質学会 北海道支部、北海道応用地質研究会、(一社)北海道地質調査業協会の共催で毎年開かれているもので、主に若手の地質技術者を対象として応用地質学の基礎知識の習得、仕事に活用できるような最新技術を学ぶことを目的として行われてきました。したがって、これまでの研修会では前半に講義、後半に実習といったプログラム構成で実施してきました。実習の内容としては、地質図の書き方、空中写真の実体視と写真判読、特に地すべり地形の判読、室内土質試験や岩石試験の実習など、仕事に活用できる実践的な技術を取得できるようなプログラムを組んできました。

ただ、最近の地質調査業を取り巻く社会環境が大きく変わりつつあり、その変化の内容やそれに伴う要領の改定、システム整備など、多様な話題について取り上げる必要性が出てきたことから、昨年度は初めて講義のみの研修会となりました。

今年度についても、昨年6月に発刊された「若き技術者のための岩盤の地質工学的評価と分類」の解説、最近活用事例が増えてきている「UAV を利用した地質調査について」など、タイムリーな話題が盛りだくさんあったことから、講義のみの研修会となりました。

(一社)日本応用地質学会の岩盤分類再評価研究小委員会では 従来の岩盤分類技術を体系的・総括的に取りまとめ、それとともに 従来の岩盤分類とは異なった視点による岩盤・地盤の分類例も取りまとめて 若手地質技術者や関連技術者を対象とした技術書を作成することを目的として 昨年6月に「若き技術者のための岩盤の地質工学的評価と分類」を編集・発刊いたしました。

小委員会では技術書の作成にとどまらず、作成した技術書をもとに岩盤分類に関する講習会を開催することも活動の一環としており、本技術者研修会において、技術書作成に携わってこられた伊東佳彦氏、江口貴弘氏、小島芳之氏、堀川滋雄氏にご講義いただき、岩盤の調査と評価および岩盤分類の考え方と方法などについて最新の知見をご提供いただくことになった次第です。

講義では各講師からそれぞれ担当した分野についての説明がありました。学会として岩盤分類について整理したのは1992年(応用地質特別号「日本の岩盤分類」)以来ということで、若手のみならずある程度経験を積んだベテラン技術者の参加も見られ、盛りだくさんの内容を真剣に聴講していました。

なお、出席した参加者には(一社)北海道地質調査業協会から本書が進呈されました(協会加盟会社1社につき1冊)。

また、最近いろいろなところで UAV（無人航空機）が注目されています。いわゆる「ドローン」という名で一般の人にもすっかりおなじみになっています。UAVには 戦場で敵地を偵察したり攻撃したりする軍事用や、農薬散布や写真撮影、そして最近では宅配への応用などの民間用など、用途も多岐にわたっていますが、地すべりなどの自然災害、震災時の緊急調査などの災害調査や橋梁点検など、われわれの業界でもいろいろな場面で使われることが多くなってきています。本研修会では最近活用が増えてきている UAV を用いた地質調査について、調査に携わっておられる大浦宏照氏にご講義いただきました。

講義では、UAV の種類、今年の豪雨災害の際に撮影された写真・動画の紹介などのほか、法律や飛行ルールなど実際に使用するのに役立つ情報も織り込んで説明していただきました。急激に普及が進み業務にも容易に使用できる環境が整ってきていることから、参加者の関心も高く多くの質問が出されました。

昨年度に引き続き今年度も研修会は講義のみの内容でしたが、タイムリーな題材を各専門分野の講師の方々にお話しいただきました。若手のみならずベテラン技術者にとっても、今後仕事を進めるうえで欠かすことのできない情報ばかりで、参加者にとって非常に有意義な内容だったと考えています。

ただ、応募人数 80 名に対し参加者が 46 名と少なかったことが惜しまれます。前回は聴講希望者が多く人数を制限せざるを得ない状況だったのですが、今回は今年の豪雨災害のため多忙を極めている技術者が多かったためと思われます。

ご講義いただいた講師の各氏に改めて感謝し、また参加された方々が講義内容を活用されて益々ご活躍されますよう祈念いたします。

技術アドバイザー 横田 寛